

令和6年度 赤穂市学校（園）評価 外部評価報告書

1 本年度の学校経営方針

学校教育目標
夢と志をもって、未来をたくましく生き抜く児童の育成
(1)「ことばの力」を高める授業づくり、「納得解」を追究する対話を通した確かな学力の育成
(2)相手の立場になって想像し、共に支え合う学級、学年、学校づくり
(3)赤穂義士等地域の歴史・文化・人々とのふれあいを通じて、地域と共に歩む「城西大好きっ子」の育成

2 本年度の学校重点目標

(1) 個を生かす学習指導の充実
(2) 豊かな人間性の育成
(3) 強い意志とたくましい体づくり
(4) 家庭・地域とのつなぎ・信頼・連携の促進
(5) 学校の組織力及び教職員の資質・能力の向上

3 自己評価結果（ A：達成した 3.1以上 B：ほぼ達成した 3.0～2.1 C：あまり達成できなかった 2.0～1.1 D：達成できなかった 1.1以下 ）

観点 (重点目標)		評価項目 (学校・教師の取組)		評価資料	評価 数値	達成状況 (４段階)	分析及び評価
		評価指標及び目標 (期待される児童の姿)					
1 個を生かす学習指導の充実	① 個を生かす学習指導の充実	項目	学ぶ楽しさを味わえる授業づくり	授業実践 行動観察	3.1	A 3.4	・楽しく学校に楽しんで通う児童が多く、保護者も同様に感じていることが分かる。教員もさらに「学び」の楽しさを感じる授業づくりを大切にすることが大切である。
		指標	児 学ぶ楽しさ実感を実感している	ノート アンケート	3.5		
			保 子どもが楽しく学校に通う姿	連絡帳 アンケート	3.5		
	② 個に応じた指導	項目	ユニバーサルデザイン化を意識した授業づくり	授業実践 教室環境	3.1	A 3.2	・児童が分からないことや困ったことを安心して教師や友達に相談したり、尋ねたりできる環境づくりができていないのか。半面、尋ねにくく、分からないという児童も一部おり、個々をしっかりと見取り、関わる必要がある。
		指標	児 授業がわかりやすいと感じている	ノート アンケート	3.2		
			保 個のよさが認められ、いきいきと過ごす子どもの姿	連絡帳 アンケート	3.4		
	③ 基礎・基本の定着	項目	各教科の基礎・基本の定着、「ことばの力」の育成	評価テスト 行動観察	3.2	A 3.2	・基礎基本ができていていると感じている児童が多いが、保護者の感じ方と差が大きい。「何をどのようにできるようにするか」という認識の違いもあるのかもしれない。
		指標	児 漢字や計算を身につけたと感じている	ノート アンケート	3.4		
			保 読み・書き・計算の力を身につけた子どもの姿	連絡帳 アンケート	2.9		
	④ 思考力・判断力・表現力の育成	項目	対話の場の設定と「考える力」「表現する力」の育成	授業実践 行動観察	3	A 3.1	・どの立場からも、思考力・判断力・表現力に課題を感じていることが分かる。基礎基本を生かして、深く考えること、それを表現することへの力が求められる。
		指標	児 自分の考えを発表したり、まとめたりしている	ノート アンケート	3.1		
			保 「考える力」「表現する力」を伸ばした子どもの姿	連絡帳 アンケート	3.1		
	⑤ キャリア教育の推進	項目	目標やめあてに向かって学ぶ授業・学級集団づくり	授業実践 行動観察	3.1	A 3.1	・個人や学級などで、目標を決め取り組むことができている児童が多い。保護者は、取り組む過程での児童の姿が見取りにくいのかもしない。
		指標	児 目標を決めて学習や生活にのぞんでいる	ノート アンケート	3.3		
			保 目標や夢に向かって学習・生活する子どもの姿	連絡帳 アンケート	3		
2 豊かな人間性の育成	⑥ いじめのない安心できる心の居場所づくり	項目	自己有用感、自尊感情、コミュニケーション力の育成	授業実践 行動観察	3.4	A 3.3	・自尊感情や自己有用感をもっている児童が多い。児童が安心して自分を出せる居場所づくりが学校・家庭においてできているのではないのか。
		指標	児 自分の思いを伝えたり、友達の話を聞いたりしている	ノート アンケート	3.5		
			保 子どもの素直な会話、肯定的に受け止める姿勢	連絡帳 アンケート	3.1		
	⑦ 道徳教育の充実	項目	道徳の時間を要とした、道徳性を育む教育活動の実践	授業実践 行動観察	3.2	A 3.2	・道徳での学びを学校生活や家庭での生活に生かそうとしている児童が多い。
		指標	児 道徳の時間の学びを生活に生かそうとしている	ノート アンケート	3.2		
			保 ルールの遵守や公共心など道徳的な子どもの姿	連絡帳 アンケート	3.3		

総合的な学校関係者評価

・子ども達が活発で発言力もあり、先生も個を大切にしている様子が見られた。
・達成状況の評価は適正である。
・Jサポーターなど地域の方達の参加で、学校や保護者だけでなく、地域の皆で子ども達を見守っていく体制がとてもよいと思う。登校時などの見守り活動も定着しており、子ども達から大きな声で挨拶してくれて嬉しい気持ちになる。
・施設の老朽化が目立つようになってきた。学校は安全な場所でなければならないので、早急に修繕計画を立て実行していく必要がある。
・色々な立場で関わる中で、子どもたちの笑顔にたくさん出会う。学校が楽しいのだと感心している。地域の力も有効活用してほしい。
・各学年、各教科ごとに内容など共通理解をし、子ども達に平等な教育ができるように願う。
・津波、豪雨災害等切迫時の学校の対応が大切である。危険度の高い災害が発生した時に保護者、地域と連携した対応を考えていってほしい。

学校関係者評価

評価及び改善策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
○	・各単元の目標を明確化し、対話や学び合いを通して自らの学びを実感できる授業づくりを継続していく。 ・学習につまずきが見られる児童への支援、関わりを意識した授業づくりを大切にを進めていく。
○	・特別支援コーディネーターや特別支援学級担任を中心に、適切な支援方法の共有化を図り、その有効性を見取りながら個々の児童に生かしていくことを継続していく。自分から聞けず、困っている児童に目を向け、細かく丁寧な関わりを絶やさない。
○	・児童の学習への成就感や意欲は大切にしながらもより具体的に「何がどのようにできるようにすればよいか」を各授業において示しながら取り組む。できている、できていないの判別が難しいので、基準を保護者とも共有することを意識する。学校での授業や家庭学習でできていることを生活場面でも生かしていく力をつけていく。
○	・タブレットPCの活用が進むことにより、「書く」活動が減ってきている。書く活動において、表現したり推敲を重ねるたりする時間を確保し、児童にもその重要性を実感させたい。 ・まとめ方などの方法、批判的思考を育てる発問の工夫などさらなる思考力・表現力をつける活動を考えていく。
○	・「キャリアパスポート」による取組は勿論のこと、教師自身が日々の授業における「めあて・ふりかえり」の意義を考え、取組を継続していく。 ・児童と共に学習計画を立てる等、プランニング能力の伸長を図るとともに、その過程を大切に評価していく。目標を可視化し、スモールステップで取り組めるようにする。
○	・児童を温かく見守り声をかける日々の関わりとともに、生徒指導チームによるいじめ防止への取組を確実に進めていく。 ・いじめの早期発見が大切であり、現状、手立ての共通理解、その後の経過見守りまで細やかに行うことを継続していく。
○	・道徳の授業づくり（展開、発問内容）や評価のあり方などを共有し、よりよい道徳の授業づくりを行っていく。本年度は、道徳科での研究授業の実践もあり、授業づくりについて教員間で考えることができた。その取組を今後も継続させていく。

観点 (重点目標)		評価項目 (学校・教師の取組)		評価資料	評価 数値	達成状況	分析及び評価	自己評価 は適切か	課題と来年度具体的改善方法		
		評価指標及び目標 (期待される児童の姿)									
2	⑧ 人権教育の推進	項目	自他を大切にしようとする心情の醸成・人間関係づくり	授業実践 行動観察	3.4	A 3.4	・どの立場からも自他を大切にしようとする心情の育成、人間関係づくりができていていると感じている割合が多い。学習活動・人間関係・環境づくりが一体となった取組の成果が表れているのではないかと。	○	・今年度は児童会を中心に思いやりについての取組を全校で行った。掲示物（よりよい言葉・行動のあり方）での視覚化や体験活動などから、様々な場面で児童の人権意識向上に向けた取組を継続していく。		
		指標	児	自分・友達のよいところやがんばりを見つけている	ノート アンケート					3.3	
			保	自分も友達も大切にして過ごそうとしている子どもの姿	連絡帳 アンケート					3.4	
	⑨ 特別支援教育の充実	項目	合理的配慮・適切なアセスメントに基づく指導・支援	授業実践 行動観察	3.3	A 3.3	・思いやりのある心で周りの人に接することができる児童が多い。どの児童も大切にされていると感じられる学校・家庭での指導や支援が、児童の周りの人への接し方にも表れているのではないかと。	○	・一人ひとりの違いや多様性を認め合える学級づくりを引き続き大切にしていける。 ・特別支援チームとの日々の連絡、相談を重視し、特別支援教育に対する理解を深めるとともに、保護者とも連携しながら進めていく。		
		指標	児	思いやりのある心で周りの人や友達に接している	ノート アンケート					3.6	
			保	障がいのある方、外国にルーツのある人、高齢の方などだれとでも協力・協調して過ごそうとする子どもの姿	連絡帳 アンケート					3.1	
3	⑩ 健康安全と生命を育む体力・気力づくり	項目	体育科の充実といのちを尊重する保険安全指導の充実	授業実践 行動観察	3.2	A 3.1	・学校では、よく体を動かし元気に過ごしている児童が多い。保護者は、「あてはまらない」と答えた割合がやや多かった。学校外での外遊び時間の確保のしにくさ、個々の余暇の過ごし方などによるものかもしれない。	○	・運動に親しむために、ICTを活用して自分に必要な動きを考えさせたり、自分事として自身の体や健康に向き合えるよう、ニュースなど身の回りの出来事を教材として取り入れたりする。 ・感染症に対しても、手洗いなどを推奨し、大きな流行もなく年間教育活動を終えることができた。次年度も未然防止と適切な対応に努めていく。		
		指標	児	健康や安全に気をつけて生活する	ノート アンケート					3.2	
			保	よく外で遊び、体を動かす子どもの姿	連絡帳 アンケート					3	
	⑪ 基本的生活習慣の確立	項目	「早寝早起き朝ごはん」運動の推進、あいさつ・返事の習慣化	評価テスト 行動観察	3.2	A 3.1	・早寝、早起きができていないと感じる児童、保護者の割合がやや高かった。習い事、余暇の過ごし方等様々な事情があると推測されるが、意識して取り組んでいくことが必要な項目である。	○	・児童に挨拶の重要性を伝えていく必要がある。社会生活で最大の効力をもつ挨拶、コミュニケーション力はすぐ身に付くものではないので、指導、支援を継続していく。 ・「早寝早起き朝ごはん」は家庭での意識も大切であるが、基本的生活習慣が確立できるような生活目標の設定など児童自身が必要性を感じられるよう取組を進めていく。		
		指標	児	「早寝早起き朝ごはん」ができている。	ノート アンケート					3.2	
			保	「早寝早起き朝ごはん」の習慣を身につけた子どもの姿	連絡帳 アンケート					3	
	⑫ 安全教育の充実	項目	「生きる力」を育む安全教育の促進	授業実践 行動観察	3.5	A 3.4	・学校での避難訓練を含む安全教育により、児童が自ら命を守るために考えたり、訓練に取り組んだりすることができている。家庭からは、災害のみでなく交通事故の防止や不審者に対する対応等も求められているのではないかと。	○	・校内の避難訓練に加え、学活や総合的な学習の時間で防災への備えなど児童が自らの命を守るために必要なことを考える学びを継続させていく。防災士を授業等で引き続き活用していく。 ・火災、地震への対応だけでなく不審者対応や避難所運営研修など、適切な職員研修を実施していく。 ・通学、下校時の安全についても地域、交番などと連携していく。		
		指標	児	避難訓練に真剣に取り組んでいる	ノート アンケート					3.7	
			保	災害から身を守ろうとする子どもの姿	連絡帳 アンケート					3.1	
	4	⑬ 開かれた学校づくり	項目	教育活動や安全安心に係る連絡などの情報発信	授業実践 行動観察	3.4	A 3.3	・学校が情報発信したものを、保護者も把握している。	○	・HPや学校だよりにより、学校の様子を地域や家庭に知らせる取組を継続していく。地域や家庭とつながることができる機会を大切に取組んでいく。	
			指標	児							
				保	HP・オープンスクール・広報誌による学校の様子の把握	連絡帳 アンケート					3.2
⑭ 地域の教育資源の活用		項目	地域の史跡やJサポーター等による地域資源の活用	評価テスト 行動観察	3.4	A 3.3	・学校教育活動では、地域の史跡やJサポーター等地域資源を積極的に活用することができた。児童も地域を知り、行事等に参加しようとしている。	○	・学校行事や授業、校外学習などで緑のJサポーターの協力が、不可欠であった。引き続き登録を呼びかけていく。 ・児童が自分の住む地域に愛着や誇りをもてるような学習の機会を継続していく。		
		指標	児	地域の行事に参加している。	アンケート					3.3	
			保	教育活動への依頼や地域資源の活用を図る学校の姿	連絡帳 アンケート					3.1	
5	⑮ 教職員の資質・能力の向上	項目	研究授業や日々の対話を通した切磋琢磨できる教職員集団	授業実践 学級経営	3	B 3.0	・「対話」を軸とした研究授業や事前・事後研究など職員同士も積極的に対話を重ねてきた。さらに研究を深めていきたいという意識の高さが表れているのではないかと。	○	・校内研修で得たものは、自ら実践して授業力を向上させていく。外部の研修会など積極的に参加して新しい知識を吸収し、それを校内で広め学校全体での底上げを図る。 ・ICT担当教員を中心に、タブレットPC活用のための研修を適宜実施した。引き続き、活用と活用方法の研修を進めていく。		
		指標	児								
			保								
	⑯ 教職員のワークライフバランスの実現	項目	業務の精選・効率化による子どもと向き合う時間の確保	学級経営 勤務記録簿	3.3	A 3.3	・業務に緩急をつけ、時間を確保することができている職員が多い。デジタル化など業務の効率化も進んでいる。	○	・業務のデジタル化、SSSの積極的活用などを引き続き進めていく。 ・より一層働きやすい職場づくりを自分たちで作ろうという意識をもち、困ったときは相談しながら業務改善に取り組んでいきたい。		
		指標	児								
			保								